

「わたしにしたのである」

モミの木きの伝説でんせつ

ある寒い冬の夜、二人の子供達が暖炉の火にあたって
いました。すると、弱々しく戸をたたく音がしました。
一人がすぐに走って行って、戸を開けました。

外には、暗くて寒い中、ボロボロの薄い服をまとった
裸足の子供が立っていました。その子は寒さにふるえ、
中に入って暖まってもいいかとたずねました。

「もちろんだよ。さあ入って。」二人の子供達が
声を上げました。「暖炉のそばにおいでよ。早く！」

二人は、この見知らぬ子供を暖まったいすに座らせ、
夕食をごちそうしました。そして、ベッドをゆずり、
自分達は固い長椅子に寝ました。

夜中になると、二人はどこからか流れてくる心地よい
音楽で目が覚めました。外を見ると、輝く衣をまとった
子供達が家に向かって来るのが見えました。その子供達が
奏でる金のハーブの音が、そこら中に満ちていました。



その時です。あの見知らぬ子が、二人の前に立ちました。
もはや、ボロはまどっていません。銀色の光に包まれて
いるのです。

彼はおだやかな声で言いました。「ぼくがごぞえていた時、
君達は家のなかに入れてくれました。ぼくが空腹だった時、
君達は食事をごちそうしてくれました。ぼくがつかれていた時、
君達はベッドを貸してくれました。ぼくは子供のキリストです。
世界中を回って、すべての良い子達に平和と幸せをもたらして
います。君達がぼくにしてくれたように、この木が毎年、
君達にも豊かな実を实らせてくれますように。」

そう言いながら、彼は戸のそばに生えていたモミの木から
枝を1本折って、それを地面に植えた後、姿を消しました。
その枝は成長して大きな木になり、この親切な子供達のために、
毎年素晴らしい金色の実をつけたのでした。

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたに
よく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者の
ひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」
(口語訳聖書、マタイによる福音書 25:40)

このお話の元になっているマタイによる福音書の
25:31-46で、イエス様の言葉を読みましょう。

